西日

巻之一

特31-677
1200500816801
特31
677
室
三函
一架
四五號
二冊
五冊

特31
677

東風

新刊納本

青淵漁夫
靄山樵者 同錄

全部六冊

航西日記

明治四年
辛未發兌

耐寒同社藏

福井市立図書館

明治庚午初冬

破浪

航西日記叙

慶應丁卯余與靄山杉浦子基從我公使使於泰西會法京巴里有博覽會五洲列國與法締盟者各差王族貴胄以莅其會或其君主有親自來觀者而我公使與焉蓋法之此會踵於英昔年之舉而更恢其規模洵曠世之偉觀足以震耀他邦也會畢公使由歷瑞白荷伊英諸邦靄山有故

遂歸余終始從事而其所經歷各有所業
累〻成冊矣東歸之後同移屋於不二山
下耕讀之餘對牀把臂出往日之記談往
日之事與夫西邦城邑之壯文物之盛以
至炎海雪山瀛舶錢路風俗景物出於意
想之外目眩而舌吐者共成一夢境而唯
此區〻冊子是心中於雪泥爪痕也乃有
合輯纂正之約無幾余辱　徵書霽山亦

先後出山王事鞅掌不能遂前約頃者大
藏卿伊達公傳聞徳患上梓嗚呼吾濟所
記特身所歷已耳目不遍語言不通要是
漆桶若帚安足悉金象而世有未涉其境
者或因為卧游之資亦不為無益也然則
愿焉而藏之篋底寧如靦焉而公之世工
遂與霽山謀公退之餘挑燈纂輯以附剞
劂因思方今法與孛戰兵敗王降當時稱

雄鳴豫震耀他邦之蹟俯仰之間不可復
觀何其衰之忽諸哉讀此書者或有感於
此事則將有得於此書之外則吾儕所記
亦將不止於區区臥游之資也

明治三年庚午冬十月

青淵澁澤榮一識

凡例

斯編。我儕自聞ハ供ス為ニ手録セシ私記ハ
ヲ交際公務ヲ除クノ外。凡遭際見聞ヲハ真況
ヲ。途中風漂雨泊郵亭旅館ノ狀ヨリ宮室寺
觀。山水。林園ノ景ヲ略記ス。其間從容探討セ有
倉卒經過セシ有。故ハ其景狀ヲ收拾ス。詳
略同ラズ。其事實ヲ採摭ス。疎密齊シカラ
ズ。到底所際ト所見ノ寛但ハ從ヘバ也
一帝王。謁見ノ禮典。交際ノ例式ヨリ至テハ其接
待ノ鄭重周旋ノ真率ナル。我儕隨從陪與シテ

之を目擊せしと雖も船ゐら之を主掌せしふ
あらざ故ゑ其事を叙ゐや。公例ゑ准ぞる循序。
及文書贈答ゑ類ゑ聘問往来辭令應酬等の
事。姑らく之を闕略ゑ附し關係なを尋常禮典
の大概を録存すゆのと

一航海中正午の測量ハ法國巴黎都府ゑを経
度を算し。上陸場。各地の経度。英國綠威より筆
を。海程ハ航海里法。陸程ハ法の里法を用ゆ

一叙事行文の體裁一ならはゐを。爾時觸景随筆
ふゑを。自ら異ゐる所以ゑて。雅馴を要せぞ。富

卷二目録ゐ詳ら録編すゆ　無論

郵船中ふて。諸賄方の取扱極めて鄭重ふを。凡
毎朝七時頃乘組ゑ旅客盥漱ゆ濟しゐ。ター
ブル餐盤ふて。茶を呑しむ。茶中ゑ雪糖を和し
パン菓子を出ゑ又豕の塩漬ふどを出ゑ。ブー
ルと云牛の乳ゑ凝たる物。パンへぬを。食せ
しむ味甚美なを。同十時頃ふいたを朝餐を食
せしむ。器械すべて陶皿へ。銀匙并銀鉾庖丁等
を添へ。菓子。密柑。葡萄。梨子。枇杷。其他數種盤上
ふ羅列し。随意ふ裁制し食せしめ。又葡萄酒へ
水を和して飲しめ。魚鳥豚牛牝羊等の肉を烹

熟し或は炙熟しパンを一食ふ二三片適宜ふ任そ食後カッフヘエーといふ豆を煎じたる湯を出し砂糖牛乳を和して之を飲む頗る胸中洩爽ふを午後一時頃又茶を呑しめ菓類塩肉漬物等を出す大抵朝と同様ふて又フイヨンといふ獣肉鶏肉などの煮汁を飲しむパンいふし熱帯の地ふ至れる氷を水ふ和して呑しむ夕五時或を六時頃夕餐を出す朝餐ふ比すれば頗る鄭重なる凡肉汁よりして魚肉の炙烹せし各種の料理と山海の菓物及びカス

分ふ當る英のポントハ我金四兩二分餘ふして其二十分一を一シルリングとを即我銀十三文目五分餘ふ當る其他各國の貨幣皆其價を異るそといえとも關係なをれば之を備ふせそ

航西日記經過順目次

巻之一

楊子江（ヤンチイキヤン）　上海（シヤンハイ）　香港（ホンコン）
紫根（サイコン）　新嘉埠（シンカホウル）　錫蘭（セイロン）
亞丁（アデン）　西紅海

巻之二

蘇士（スエス）　談禄（カイロ）　亜歴散大（アレキサンドル）
墨西拿（メシナ）　撒丁（サルジニイ）　歌尓西克（コルシカ）
馬塞里（マルセイル）　視水底術　功牌（メダイ）
黎昂（リヨン）　佛都巴里（パリス）　養魚所

那破烈翁墳　夜茶會　佛帝謁見
風船　劇場（シバイ）　舞踏
亂弓（アルクトーヨミ）　チユロリー宮　小舞踏
戰爭圖　テヤートルシヤットルイ　シヤルクラン館
ホワテハムフロン園　アツクリアタション園　埋地道

巻之三

競馬　巴里調練　魯帝危難
巴里新聞　病院　英國新聞
横濱新聞　博覽會　儲水

巻之四

博覽會褒賞　セイヌ河　博覽會新聞
獨樂　手品　カリフニー新聞
足技　ヒカロ新聞　雜報

巻之五

那破烈翁誕辰　回歷初途　瑞西（スイツル）
說法所　伯尔尼（ベルン）　ツーン
蓄熊　日内瓦（ジユネイ）湖　メイトロホール
ハロンロウチーユル　アーシヤテル　ランヌ河
荷蘭　議事堂　荷王謁見
アムストダム　レイデン　荷王再謁

白耳義（ベルギイ）　火技　アンヘリス
劇場　シラアン　マリートヲワニエト
畋獵　調練　燕見
マストリウツク　サンミセール　伊太里
石細工　王謁見　別都ミラン
ヒイサ畋獵

巻之六

水軍調練　噴火山　瑪児太島（マルタ）
戍兵調練　的打　集議場
水師調練　英國　倫敦府

議政堂　王謁見　劇場
新聞紙局　ウーリツチ　調兵
大砲製造所　キリストル　バンイス　スリウス　ベリ子ス
大砲打様　鉄臺場　貨幣局
海軍器械　セラゼス　狙撃船
海上試砲　三兵調練　浮梁
屯兵所

東京帝國大學圖書館藏

航西日記卷之一

青淵漁夫　同錄
靄山樵者

慶應三丁卯年正月十一日（西洋千八百六十七年二月十五日）朝七時。武藏國。久良岐郡。横濱港より。佛蘭西郵船（船号ヒャクラ子アル）へ乘組ミ。送別の友人など。本船まで来りしも多く。惜んごろに。名ごりを惜別をつけ。且此港ふ来住をる。諸州の人々は歸省をるも何まて。次第に乘組ミ。同九時ふ發ちり。是一萬里外。壯遊の首途なり。折しも天晴風和き。海上穩靜まて。伊豆七

島を淡靄中ふ看過し。遠江。伊勢。志摩ふぞ。見えて夜に入るぬ

同十二日（西洋二月十六日）曉よ是北風ふて。波高く。船動揺して過ず。午前九時。紀伊の大島を。右ふ見る。午後一時頃。土佐ハ地方ハ望む。此船の社長なる。佛蘭西人クレイといふ者。篤實ふて。諸事懇切ふ取扱簡便にて。事足る。且耳曼の人。シイボルトとい〳〵ふハ。横濱に在しゝ。事充てゝ。本國へ歸省をとて。乘組なるゝ。御國の語に通曉し。專ら通辨をなし。幸ひに便利を得たる

郵船中ふて。諸賄方の取扱極めて鄭重ふ是。凡毎朝七時頃乘組ハ旅客盥漱ゆ濟しころ。タールブル餐盤ふて。茶を呑しむ。茶中ハ雪糖を和しパン菓子を出す。又豕の塩漬ふどを出す。ブールと云牛の乳ハ凝たる物。パンへぬるて。食せしむ。味甚美なる。同十時頃ふ。いたる朝餐を食せしむ。器械すべて陶皿。銀匙并銀鉾庖丁等を添へ。菓子密柑葡萄梨子枇杷其他數種盤上ふ羅列し。隨意ふ裁制し。食せしめ。又葡萄酒へ水を和して飲しめ。魚鳥豚牛牝羊等の肉を烹

熟し或ハ炙熟し。パンハ一食ハ二三片。適宜ハ任意。食後カスヘーといふ豆を煎したる湯を出し。砂糖牛乳を和して之ハ飲む。頗る胸中ハ爽ハ。午後一時頃又茶を呑し。菓類塩肉漬物等を出ス。夫抵朝と同様ハて。又フイヨンといふ獣肉。鶏肉なとの煮汁を飲しむ。パンハふし。熱帯の地ハ至れハ水を水ハ和して呑しむ。夕五時頃夕餐ハ出し。朝餐ハ比すれハ頗る鄭重なる。凡肉汁よりして魚肉の炙烹せし各種の料理を。山海ハ菓物及びカステーラの類或ハ糖もて製をし。氷漿グラスヲクリームを食せしむ。夜八九時頃又茶を點し出し。朝より夜まてハ。食ハ二度。茶ハ三度。ハ常とし。其食ハ極めて寛裕を旨とし。尤烟草ハど吸ふを禁し。總て食事及び茶ハ。鐘を鳴らして其期を報し。鳴鐘凡二度。初度ハ旅客を頓整し。再度ハ食盤ハ就ハしむる。ハ常とす。若ハ不食ハ。疾病あれハ醫をして診をしめ。其症ハ随て藥餌を加ハ。此等の微事を載るハ。贅語なれとも。微密丁寧。人生を養ふ厚き感ぞ。

堪たゑ。因て其畧茲ゝ記載をゑ

夕方。英國郵船の先發して。波間ゝ馳行をる。影みえて夜に入ゑ。雨風東ゝ轉を。昨日發船よゑ此日正午まで。三百里を航をゑ

同十三日西洋二月十七日　雨風西ゝ轉に。午前十一時。土井个嵜日向を右手ゝ見て。鹿兒島灣薩摩を過く。名ゝしれふ。海門嶽俗薩摩不二といも。煙霧中に髣髴として。時々其一斑を望み。行々御國の影幽ゝして見えぬなをゆゝ。彼大船の艦きをはふちゆゝといえる如ゝ心雄々敷あゑなるらゝいと余波れしきや

うに思ゑる

同十四日西洋二月十八日　風烈しく雨細し。船の動揺甚しく。折々風潮灑き来ゑて。早板を濕ゑ或ハ窗よゑ各室ゝ入れて器械なを覆ち。餐盤ゝ就く者稀なり。終日室に入て。枕籍して。皆沈默をゑ。楊子江の流。未海面ゝ注き。黄色渺々たゑ。此日二百八十里航をゑ

同十五日西洋二月十九日　曇。曉より楊子江ゝ沂る。此江海口ゝ近く極く廣く。綠黄色ゝして。濤河水濁々ゝ中ゝ興なるゑ。凡四十里許。溯ゑて左右ゝ分流し。右ハ楊子江本流ゝ。左ハ

呉淞江といひて我淀河ふ倍する程なる布帆蒲
席の支那船遠近ふ出没する
隨唐佳話ふ呉都松江鱸魚の膾を献ずと云所
謂晉の張翰ふ秋風ふ尊鱸と思ひし所からむ
流も分岐せる所向ふ岸ふ砲台の蹟草樹生茂る
故墨依然と存するのを清の道光廿二年壬寅年
我天保十三年西洋千八百四十二年鴉片の亂ふ大臣陳化成の戦
死せしも此あたりなりといふ坐に感慨の情ふ
堪ずまず沂る兩岸楊柳の春ふ顔に霧々
村落の見ゆるもいと風情あり漸く帆檣の影林

如く人烟の稠きを認め。なほ進みて。午前十一
時頃。碇泊をる。少為して支那人朱塗に魚眼を舳
ふ畫きたる小艇。艕き来りて。乗合の旅客に上
陸をすゝむ。其一隻を雇ふて。上海港に上陸す。此
地支那領なり。我横濱より。海路。千三十五里。通常程。六日に至る午後三時。同所
ふ設たる英國の旅舍ふ上る。英佛其他の人々并ふ
本地の官人来りて。安着を賀し。英人郷導し。江に
傍ひ逍遥するに陪せり。江岸を外國人の館舎連
り。官邸ふハ。其國々の旗を高く掲げ。各自便地を
卜免たり。其間に税館上海所あり。江海北關といふ

扁額を掛け。門ゟ江ゟ面し。浮波戸場ありて。家根を設け。鐵軌敷き。荷物陸揚の便利とも。税務ハ運上の事務。近年西洋人を雇ひて。掌轄せしめしよ里。汎濫ゟ遺利なく。舊来の弊を改め。歳入の數元倍花し。凡一歳五百万弗ゟいたれりといふ。我凡五百万両

洋人資て外府に流るなるべし。江岸ハ都て瓦斯燈を地中に石炭を焚き。樋を掛。火光を。所々へ取るもの設け。電線を鉄線と張り施し。越列機篤の氣力を以て。迷妨に備を傳ふる。ものをいふあり。施し。佳木を栽え。道路平坦ゟして。稍歐風の一班を視る。夫より

一里許ゟして城内に到る。城の周圍ハ。瓦を以て疊みたる塀ゟして。廓門と思しゟ所に。兵器を鉾の類飾る。護兵といふ文字。衣の脊に印したる。兵卒待めて。其邊より辻賣の商人。道路ゟ食物器翫物等を鬻く。市街ハ往来ハ道巾隘く。各廛二階造なれとも。簷低く。門狹し。各種招牌を掲け。或ハ往来の上に横截して掛しもあり。牛豕鷄鶩諸飲餐の店。見世先ゟして烹賣せる。故各種の臭氣混淆し。鼻を穿ち。路ハ石を敷き並べたれとも。両頬の捨水汚湛し。乾く間なし。諸商人駕舁丐者など。声々ゟ

呼て。羣集の中を行通ふさま。厭べきふ似たり。古玩書肆。画家ふどに至る見れども。尋常の品なきうて。奇品なし。墨肆。曹素功。并ふ査二妙堂にゆきて。筆墨など購ひしが。手拭を湯ふ浸し。與へぬ。此ハ顔をぬぐへとの事ふて。茶に代るもてなしふるべし。外諸店ふ至れども。烟草の火なく。求をハ太き線香に點じて出とる。居民ハ富る者ハ多ム。駕籠ふ乗る注来れ。貧しきものハ。衣服垢敝して。臭氣なるもの半ふ過たり。城隍廟ふ抵る。城中第一の香火の所と見ゆ。繪馬堂様の所ある。廟前

の泉池ふ臨ミハ橋を架し。池心一介の堂あり。禮拜香花を供する斛。本邦ふ異ならず。社内ふ覗き見る物。突富賣ト錫笛曲藝などあるて。其家寄料理割烹店等あり。いづれも簷低く。暖簾を掲け。各客を迎へ。胡牀を借し。飲食を鬻く。賓客此ふ羣飲。合餐を。蓋此日縁日ならむ。城外の市街ハ寛濶ふて。往来道路も廣く。朝々魚市。蔬市等立て。鯉鱸鰔塩鯛の類。廣東菜。五升芋。其他の野菜等をならべ。何れも秤目に挂て賣る。鯉鱸ハ三尺許ふはも見ゆ。其まゝ江ふ傍ひて下り。一里餘。新大橋と唱

るあり。檣桁を揚卸して舟行碍なりらしめ。檣錢を取る。提ハ兼て。宿ふてもなり其ゝより先ふ。英國客舍も在り。其裏通ふ續さ。土民の市街軒を並べたり。此處にハ。青樓。演劇。茶屋なりて。弦妓樣のもおも見へ。月琴ふどの音も聞へ。雅致あり。此地高官の街衢。注来を兵卒從僕多く引率して。巡邏そ。其行裝の整ハさる。衣服の粗なる。恰も兒戲ふひとし。此地佛國の教師。支那の風體となり。講堂を開き。教誘する者あり。亦歐人の支那學を研究そる為め設し書院も何りて。都て歐人の東洋學を。修行そる者。皆教法の人ふて。其國の教法ハ由来する所を推し究め。考證の資とし。且其教を弘めんとせるよそ。其宗旨の積金より。修行の入費を出さるよし。歐人の土人を使役そる。牛馬を驅逐そるふ異ならす。誓呵そるふ棍を以て。次。我曹。市中を遊歩そるに。土人蟻集して。注来を塞ぐ各雜言して喧しきと。英佛の取締の兵来そて。追拂へハ潮の如く去り。少く休めハ。忽集る。其陋体厭ふべし。東洋名高き古國ふて。幅員の廣き。人民の多き。土地ハ肥饒。産物の殷富なる。歐亞諸洲も固より及ハ

ざる所といへど。然るに喬木の謂はみふて。世界開化の期ふ後れ。獨其國のみを第一とし。尊大自恣の風習あり。道光弥来れ瑕釁を啓き。更に開國の規模も立てず。唯兵威の敵し難きと異類の測ら神ざるを畏。恐はゝの美ふて。尚旧政に因循し。日ふ貧弱ふ陷るやを思ふる。豈惜まさらむや。此夜鱸魚の鱠などあるて。生餐きる廣東菜。味殊ふ佳なる。始て水枕を免うれ。陸地の眠を覺ふ

同十六日西洋二月廿日快晴。微暖頗る春日の想をなし。此日交際ふ係る事故多く。其務ふ從事に。英佛東洋ふ備る軍艦の提督并ふ駐任の諸官人来りて。名刺を通し礼問を。本日い祝日なれい日曜日也西洋及び支那人共。幼稚。兒女。衣服なと粧ひ。遊歩踏歌を。まゝ夜色蒼朗月清く。海面鏡中の如く。眺望甚佳なり。月ふ乗して猶散歩を。此日各郷信を寄せ

同十七日西洋二月廿一日北緯三十一度十五分東經百十九度九分晴。午時上海を發を。吳淞江を下り。海口へ出つ。天氣清廓。江中波濤。穏ふして。両岸の眺望春妍を呈を

同十八日西洋二月廿二日北緯二十八度十一分東經百十九度三十二分晴。昨の如し。船中釋渙の意をなし。江河の餘濁。海水を界

香港

一茫渺（ボウビョウ）たる黄浪と蒼波。夕暉（セキキ）は映し。錦を布（シク）のごとし。

一支那地方を西に見て。甲板上に夕陽を送る。此日二百六十五里を航せ

同十九日 西洋二月廿三日 北緯二十四度十九分 東経百十六度二十八分 晴。なを

昨の如し。皆甲板上に散歩し。餐盤上にて圍碁（イゴ）将棋（ショウギ）の戯をなし。消光の助とせ。漁舟の地方に添て

東風に泛（ウカ）べる帆影の烟霞（カスミ）に暮もいとおかし

同廿日 西洋二月廿四日 晴。なほも風穏にして朝

十時頃。香港（ホンコン）に著ぬ。此地英領なり。上海より八百里。通常程四日。此間獅湾（ライワン）との

海、険（ケワ）なきに。波濤激（ハトウゲキ）して。暴（ボウ）し。北緯二十二度十七分にて。季候稍暑し。此地に廣東府

地先海中に在る一孤島にして。港内羣嶼（クンショ）繞環（ジョウカン）し

風濤を支へ。海底深くして多く船舶を可泊せし

むるに足れり。平坦（ヘイタン）の地少く。山腰を截（タチ）て道路を

設け。海岸に支那人の家居多く。山手に畫く。歐人

の居なり。道光（ドウクワウ）の戦後。講和の為に償金の外。割（サキ）て

英國に附屬（フゾク）せし地なり。往昔（オウセキ）は荒僻（クワウヘキ）の一漁島なり

しに由なしと。英國は版圖（ハンド）に屬せしより。山を開

き海を填（ウツ）め。磴道（ダウ）を造り。石渠（セキキョ）を通し。漸（ヤウヤク）人烟稠密（チウミツ）。

貿易繁盛（ハンセイ）の一富境（サカン）となれり。地圖に據（ヨ）

て考ふれば。潮州（チョウシウ）あたり欲と思ふる。唐（トウ）の韓愈（カンユ）は

鯉魚の文あるしも。昔時ハ替至て牢固の巨船ハ乘し。萬里波濤を枕席とせる。其時代の境遇懸ハ異るより推せハ。世運日新ハ赴くなる。亦一瞬の間ハあるを知る。今英人の商業を東洋ハ擅にし。利益を得る。印度の所領ハふるといへとも。其便利ハ道を得て。流融暢通運輸自在ならしめ。利柄を掌握し。通塞を專斷し。開合高低變化を計り。東洋貨力ハ權を執る。其由る所なきハあらす。且土民の保護ハ為め。海陸兵備を嚴ハし。其國の榮名と其利益とを謀る。規模の宏大なる。所見に就て知るへし。鎮台ハ全權ハ大任ハて。威望ある者なり。近年此地ハ大審院を置。裁判の貴官を在留せしめ。東洋ハ分在を設。國民の訴訟を准理審判をといへ至。山手の人家ハ歐風ハて。暑熱の地なれい水泉茂樹ハ設け。簾幙胡牀ハ備專ら夏月占涼の為めハ結構したり。英華書院其他各書院あり。造幣局新聞局講堂病院等盡く備至。暑歐洲ハ體を備へて微なる者といふ。英華文學上の書籍多く此地ハて刊行す。英人華學を修行をるもの皆勉強刺苦固より淺近ハあらを。其教法の由来をる

所を研究するたゞ。其學問の源委を考索し。其治體風俗より歴代政典律令ハ勿論日用文章まで精究し。其書を譯し。其說を著し。大事業を遂るもの。其人之しうらぞ。文明の素ある人心ハ精神ある學術の上ハ從事するゝと。乃國の強盛ハ。人智の英靈周密なる所ゝを徵するハ足れり。此地ハ最高巔を太平山といふ。登る凡一里余ハして。巔ハ旗棹あり。國旗を掲け。島嶼の錯置風帆の往來。望洋れ觀。遠迹一目ハ在ゝて。眺覽奇絶なゝ。山を下り花園を一見す。闔地土民。休暇遊息ハたゞ設けたれハ。泉石花卉を陳。雅致匠意を盡し。遊覽の際。聊客愁を滌ぐ。

○本地より限日廣東へ赴く瀛船あり。凡八時間ハ到るゝ。又毎週刊行の香港新聞紙あり。漢文ハて一ヶ年分。定價四弗なゝ。又香港通用の貨幣あゝ。○歐行れ旅客此所より籐冰籐席團扇。或ハ熱帶下を過るハ用ゆる。帽子を買ふて避暑れ用意す。其他名産い。白檀彫箱。象牙細工。蓮紙一種れ紙より。畫。楠箱。筬細工。支那絹張ハ摺扇等ふり。支那店ハ。文墨品あれとも。上海ハ比をれい。價貴し。郵船此港にて替

る。船は所泊一晝夜。又い二日程の規程なり。○都て歐洲ふ赴んに。横濱にて取替し銀錢と。此地ふて。英貨ポンドに取替へ。航海途中入用とをるを

よしとを

同廿一日　西洋三月廿五日　陰。朝来細雨。此地度數南ふ移るをゝて暄暖を催し。本邦の暮春ふひとし。此地ふ設け在る。造幣局を一見し。英國水師提督を尋問の為め其軍艦ふ到る。歸後佛國の囚士来りて謝を。午後三時。英國は囚獄を見る。其壮宏ふして。罪人ふ取扱りた。そへて軽重ふ應し。各器局ふ隨

職業を營しを。且獄中ふ。説法場を建置き。時〻罪人を集ひ。説法を聽りしむ

此説法といえるい。善惡應報は道を説て。勸懲せ十を。罪人をして。後悔懺解をさしめ。總て惡を戒しを。善ふ赴りしむるを專ら説なり。其中ふい前非を悔ひ。放心を取戻し。遂に本心ふ立歸る者ありといふ。其人員を減るを憂ひ。死刑を恐るゝ。則皇天は意ふ順ひ生を愛し。民を重んをる道。懇篤切實なる感するふ堪たり

同廿二日　西洋二月廿六日　烟雨朦朧たり。交際上は事務

畢りて。郵船に託し。各郷信を寄せ。旅舎樓上眺望。新緑を催す。横濱より乗来りし船い此所まてに。午前十時比。小艇に乗て佛國の郵船（船号アンペラトリス）に乗替る。アルヘー船よりい二層も大なる船よて尤清潔なり。午時出帆せ。風順よして霎時に。支那南陲地方を背にして航せり

同廿三日（西洋二月廿七日北緯十八度四十分東経百八度五十一分）晴。たふも東北風よて真帆張て。船脚速なり。安南の南陲及ひ附属の小島を西南に見て。次第に熱帯下に近く。季候単衣に適ふ。此日二百七十八里を航せ

瀾滄江　東捕寨

同廿四日（西洋二月廿八日北緯十三度五十五分東経百七度二十三分）晴。昨夜ふる暑甚しく。航せる南に移りしを覺ふ。本邦五六月の候にひとし。俄に麻を着し。各甲板上の散歩快よく。相集りて。探題次韻なとして。遣興せ。此日三百里を航せ

同廿五日（西洋三月一日此日経緯を測らに）晴。暑威弥強土用中の如し。乃是赤道近きなり。午時瀾滄江の入口。燈明臺の梵に至る。夕四時比。東捕寨河口へ入て。上流に潮る此間兩岸緑樹繁茂し。根株水涯に浸し。樹尻尾長き猿の羣に遊ふを見る。川幅本邦墨田

川程ふり。往〻狹曲ふいさ里ハ。船尾旋らさ毛艢戻ーて過ぬ。岸ふ垂るゝ木くも手折べき程ゐて水底い極ゑて深ーと見えて。舟行碍りなし。暮六時頃。紫棍の港小着ぬ（此地安南。南隅瀕江の地。佛國領なり。香港より九百十五里。通常程四日。緯度十度十七分ゑ在て。季候。暑熱。土地肥饒。風俗。支那ゑ似て陋ー）此地駐劄佛國総管の使者来ゑて。安着を賀ま。此夜星斗燦然。銀漢低て叢裡の虫聲秋を報ま。季候の變ま。瞬息の間亦航行の迅速なる。旅客の感を増ま。

同廿六日（西洋三月三日）晴。朝七時。本地官船の迎ゑより。陪従ーて上陸ま。矸泊の軍艦祝砲ありて。騎兵半小隊。馬車前後を護ー。鎮台の官邸ゑ抵る。席上奏樂小畢て。其本國の博覧會ふ摸擬せー。奇物珎品を雑集せる所を一見ー。市街を遊覧ー。午前十時頃。帰船ー。夜鎮台の招待ゑよ。官員會集ーて。猶奏樂ま。るを聴く。○是より先。佛國郵便を開く為め。紆畫ま。る事あらむとて。教師を遣ー。此地の形勢を測らーめたるを。土人憤怒ー。其人を殺害せーまり。竟ゑ戦争ゑなる。佛兵大ゑ土兵を攻撃ー。内地小深入ま。是ゑ因て和議を講ー。地を割て罪を謝ま。仍来佛國所領ゑなるー由。鎮府在て。重

官を駐め總轄せしめ。三兵の將官。及兵卒凡一万を駐劄せし也。不虞ふ備へて盛んに開拓建業の目的をなせ。されとも兵燹の後いまだ。十年にも充さされハ。土地荒廢し。人烟稀疎。ふて全く休養。殷富ふいたらせ。且土民反覆測り難く動もれば。嘯合住乱し。来離をるあり。故に佛兵常に戒心ありて。兵額を減せるなしと云。各國。船舶も僅ふ四五艘所泊せるのみにて。商店も少し專ら土地を修繕し。既ふ製鉄所。學校。病院。造船場。等を設け。東洋根據の要領とふし。大ふ他日の遠圖をなせ。

されとも一歳の収税額。僅ふ三百万フラングふ過ぎ年々入費多く得失償ひりさき故。本國議事院の論も區々也と云○此港東捕寨口より西流る凡半日程。里數六十里なりといへとも。其水底深き所凡四十五尺許なれば。運轉をるに碍なしと云。上陸場ハ平岸にて。船を中流ふ卸す。小艇ふて上る。土俗貧陋ふて。婦女子。男工ふ代り。垢面蓬鬢ふて。舟を艪又。荷物等を運ひて。生活ふ。熱帯の地ゆへ。沙塵飛揚し。遊歩も懶く。名勝の探るべき佳地もなし。鎮府ハ江濱より。八九丁隔て。一ケの

樹林清茂の地に在り。劇場妓院もありて。支那と同風なり。追く歐人移住せるものありて。人員も増せりと云。案内の者を雇ふて。椰林（椰子樹に似て大ふ高き木）の間を行き。一の曠敞の地に出いさる。象奴（象獸をあつかふ者を云）二象に跨り来りて伎藝せんと乞ふ。命して其伎を見る。二象を鞭撻し跪坐せしめ。或ハ突立せしめ。おのれ上下超乗などして。自在を示し。やがて本立ある所に至り。一合把の木を鼻に挂て拉折せしめ。我徒乗らむといへば。又撻て跪らしめ。其後跳ふて上りて。其背上に跨るに。亦自在なり。此辺両岸をへて。荊棘のとき樹木茂りて。處く虫の鳴き。田畝ハ農夫の熟稻を穫など。時候の異る感をへし。田畝ハ米穀二度の作地にて。所謂安南米是なり。東洋諸國へ運搬售賣して利益をなす。金銀貨幣を傳来して。所持せるもの多し。○土産。鄰船に持来りて賣る。蒲葵の團扇。笠等なり。又馬車を雇ふて。商論といふ古市に到る。此港より凡二里程もはなれぬへし。往昔ハ繁華の地と見えて。巨閣高廊の頽廢せしあり。市中一个の大社あり。聖母殿と漢字にて書せし扁額

掲く。蓋し海神を祀るならむ。石碑。繪額など多く
掛並べ。両三の支那人居て祠の縁記様のものを
賣る。依て筆話もて猶事由を問しが。了解せざり
しや。答辞なし。㊐可泊丸一夜半日ゐて發せ。英船
い寄らさる所也

同廿七日 西洋三月三日 晴。午時發し。瀾滄江を下る。午後
四時頃。川口なる燈明臺山の禁ふ至り是より水
先案内の者を歸せ。次第ふ大洋ふ航せ。船脚速
なり

同廿八日 西洋三月四日北緯六度二十一分東経百。三度五十六分 晴。暑酷し

風様旺ふひとし。白瓜を食し 本邦真桑の類 苦熱を凌く。
此日二百四十七里を航す

同廿九日 西洋三月五日北緯一度四十五分東経百。二度十三分 晴。暑風順
なり朝二个島を右手ふ見る。午時漸く地方近く
航し。午後二時。新嘉埠燈明臺を過る 燈明臺い。海中の突起せる岩上へ造立て堅固ふして。他ふ超へ高く聳へなる者也 夕五時新嘉埠へ着
きぬ。此日二百九十一里を航す

二月朔日 西洋三月六日 晴。朝六時上陸す。柴棍より六百三十七里。通常
程三日 麻剌加蘇門答剌。とを。左右ふして。東洋第一
の海闊なり。亜細亜大地より海中へ長蛇のごく

突出し。北緯一度十七分ふ在りて暑。酷烈といへとも。樹林繁茂の地多く。清蔭快涼をト。且時く驟雨来りて煩熱を滌く。土地赭沙ふて。港景寄稼穡の地も見えず。雜卉野草。路傍ふ蔓延し。彩禽文羽。其間ふ嬌柔宛轉せり。土人の風俗。安南と同しく。裸跣のもの多し。市街も亦同様なり。英領ふ属せ。年記未詳埠頭の修營ふり。石炭の置場。電線の設け。馬車の備へ在て。總て人工を用し功績も見えて。英國の志を東洋ふ逞せる素あるを見るふ足きり

○灣口。恰ト園池の如く。島嶼。數ケ環列し。緑樹其上ふ葱籠として。園丁意匠を勞し營築せるふ似さり。瀛船此處ふ至ま。灣を通し。廣き所ふ至り。船を回轉し。送船の便利して。可泊を。浮波戸場ふ船を着け。橋を架し。上陸を。海岸を。石炭倉のミふて。居民なし。水ふ臨えて亭舎數箇あり。蓋歐人の。盛夏。遊息の為め。設けしなるべし。○馬車を雇ひて。市府ふ至る。港ふり凡一里余。雜卉汗沼ふ沿ひて徑路あり。府下ハ歐人土人とも雜居して。諸物を販売。價。極て不廉なり。歐羅巴と号せる。客舎ふ一泊を。此地第一の旅亭也といふ。市外數武ふ花

園あり。小山を形とり修造し。百卉千草を殖並へ。遠近眺望の趣をなし。園中泉池もありて。炎暑煩襟を清くし。客思鬱懐を慰せ○土産。藤蓆。策杖。アンペラ。其外文禽。或ハ最小の猿。なと持来り争ひて旅客に商ふ。亦歐洲各種の貨幣を持来り。郵船府泊の間。浮波戸場に風呂敷をしき。其上に開きて。両替せ。中小い廉もあり。又古貨幣の雅なるも見えさり。俵体の小児小艇に乗り船側に群り。勧め銭を投けしめ。海中に入て拾ひ来る。銅幣にてハ。水中認ゝさしとて。銀貨にあらさ花ハ跳入せ

ず。本邦の江島。途中抔の如し。人生情態更に異らに其水中に争ふ亀の子の如く。又海上競渡の真似して其先を争ふ。迅速なる矢の如し○此地より。仏哇扳隊此へ赴く旅客い上陸して。郵船定日の期限を俟合せ。○午後四時。佛國の罰士。夫婦にて来り。送別せ。各郷信を認め郵便に属し。同五時發せ

同二日 西洋三月七日北緯二度東経九十八度四十二分 晴。暁来順風。暑氣凌きよし。右手小麻剌加地方を見る。昨日より。旅客増して。船中混雑し。甲板上遊歩も自在ならず。此日百九十九里を航せ

同三日　西洋三月八日北緯五度三十二分東徑九十五度十四分　晴。ろふも軟風。暑氣前日ふ層ひ。安南地方をゆき過ぬ。望中一点のものを見ず

同四日　西洋三月九日北緯五度五十四分東徑九十度十分　晴。昨日ふり。聊り暑を減ず。航路熱帯風濤。舌寧ふして無事。互ふ長日を惜ミ。課を立て。洋學を講ずるを興とす

同五日　西洋三月十日北緯七度。八十七分東徑八十五度。八分　晴。昨夜蒸氣器械少損せしゝ。夜三時頃より。航行をさゞめ。洋中ふ碇泊ス。同五時頃整ひぬとて發す。漸く印度洋正中ゑ抵り。四顧毫碧も。眸中ふ入ものなし。

錫蘭

只波間ふ。飛魚の游跳ずるを見る

同六日　西洋三月十一日北緯六度十六分東徑八十一度三十一分　晴。今曉四時頃。器械ずゝ損しぬとて。洋中ゑ投碇せり。漸整ひ。風順ふして航ずる甚疾く。両度の碇泊の間を償ふ。

同七日　西洋三月十二日　朝七時比錫蘭島の内ホアントゞガール（嘉埠）へ着さぬ。四里。通常程七日船中ふて朝餐し。午前十一時上陸ず。オリヤンタルといふ旅舍ふ投ず。少焉して。此地の官人来りて安着を賀ず。此地印度の屬島ふて。洋中挺立し。港ハ北緯

六度一分ふ在て。土地熱帯ゑ近く。終歳氷霜なく。四時木落を見ず。赤壌沙泥ゑ〻て。肥沃なり。土民貪瘠。支那人とハ。骨相異り。聊ら順良。勉力の風あり。蓋久しく歐人ふ役使せらる故なりといふ。其体。披髪。倮跣。腰間。僅ふ更紗木綿もて掩ふ。色黄黑ふて。深目黑歯赤脣なり。下民。平生烟草を買い得さるものハ。檳榔を嚙〻て。吸烟ふ換る。故ゑ自ら歯黑〻て鉄漿を衒むふ似さり男女とも頭ゑ丸き櫛を挿み毛髪を束ぬ。始ハ葡萄牙領ゑて。在〻を。荷蘭ゑり攻取り。爾後竟ゑ英國の所領といな

りて。港口。城門上ふ。西狮金冠を捧けさる荷蘭の標記。今尚存せり。港口。岩石あり。潮波激揚〻。上陸甚難〻。土人狹小の艇へ。一方ふ朴もて桙と〻釣合ハせ〻一種の舟もて。上陸せ〻め。波戸場木造の小屋ゑて。直ふ城門ふ續く。門中砲卒守衛ゑ。夫ゑり少〻高き所ふ上りて。市街あり。海岸ハ平べて砲台を建回〻。砲門を設け。火藥庫もあり。製造古様ゑて。荷蘭領の比。築きものと思ゑる。海岸西の方ゑ。燈明臺ゐり。鉄造りて高さ六十フート（我九曲尺八丈余）といふ。海門。庶務ハクーフルヌマンエ

イシユルといへる役ゐて。掌どる。土地熱帯なれハ。亭榭をべて避暑の工夫せり結構なり。産物多し。就中菓物佳品魚類の鮮ふて食料頗る芳美なり。梭櫚。芭蕉の實。黄橙。檬檬。桂枝。甘蔗。等良好なり。カレイとて。胡椒を加へたる鶏の煮汁ハ。桂枝の葉を入るものを。亦名物とす。〇馬車を雇ひ。三里ばかり山手ふ。遊ふ。平畑曲折して。椰林茂り其間ふハ。水田ふ秧を植むを見る。亦水芋。蓮。等青〻と浮べり。山ゐ登ゐ五六丁ゐて。一个の佛寺ふ抵る。寺名ボーカハウアといふ。山門あり。門ふ入れハ。

正面本堂ハ鎖して。常ふ開かに。僧ふ請ふて開かしむ。堂内安置せる。釋迦涅槃の像七ヤールトあり。我九曲尺二丈一尺余磁製なり。全体黄色額ハ白毫なり。合掌。側卧胸より下ハ衣もて掩ひ。衣鱗状をなし。堂の側。僧房。廣宇。ミな天堂。地獄の圖を画けり。僧衣ハ袈裟のミなして。跣足。禿頭眉毛を剃去り。香を奠し。花を供し。合掌。誦經の音。畧禅なり。山の後。即佛骨を收し所ゆ[illegible]といえり。三層ふ築き。石壇を繞らし。中ハ一樹を栽ゑり。即菩提樹なり。外ハ物なし。又一所ハ至れハ。山頂ハて。眺望。佳絶。小亭を

構へ。三鞭酒なと。備えて驚く。此山上ニ。一螺青山の雲間ニ見ゆるあり。即霊鷲山なりといふ。帰り来り午餐ニ就く給仕人ニ。倶體黒身。下部を布もて掩へるのミ。甚ク厭ふべく夜ニ入り。微涼ニ乗し。市中を遊歩ス。土人の家屋。新嘉坡ニ暑同し。貧陋。猥雑。の景況徴ス べし。〇島産。各色の宝石。皆指環へ嵌入して賣る。又泡玉珊瑚。真珠ハあり。贋製多クなれバ。漫ニ信しがたし。象牙。象骨。の細工物。椰子。烏木。蝟毛。籐細工。各種木の看本。鼈甲細工。貝類。文彩。の小鳥の各種を。旅亭の戸前ニ持来て。争ひ勧む。其細工物ハ。皆歐人の所用とする。為ニ製

ある也〇貝多羅経の古きハ。漆塗。金字。ニ して尋常なるも。皆鉄筆ス て。貝多羅葉ニ書セしものなり。中央ニ孔あり。紐もて綴ル。其字体梵とも異なり。一流の体ニて。蟹行ニ記セり〇此港ハ。三方海ニして僅ニ。一方築出セり。洲嶋のミニて。大洋の吹返しを支ゆるニ足らされハ。所泊間ニ狭く。船動揺して。甚ク。きハ器物を破毀セるに至る。加尓佶多。孟買。麻都羅斯。孟智世利。等へ赴く旅客ハミな此港ニ。限日の船便ありて。毎ニ。

侯稍暑し。

同八日 西洋三月十三日 晴。朝八時雲を。暑威昨日より弥増し。眩暈をる計なり。午後一時。洋中鮫魚。の数頭波間ゝ跳躍をるを看る。本艸ゝ鮫ハ南海ゝ産し。鼈ゝ似て。足なく尾あり といふ。其言の如し。夕三時。驟雨来りて。少為ふして。海上。一圍の黝雲起り。忽地空中暗黯として。俄然低回し。波濤ゝ相接し。潮浪を捲揚る。陸地の。驀風の颯揚をる如く。其響あり。さるゝら龍腥を挾む勢ひあり。俗ゝ。所謂龍捲なりとて。衆人。奇観の想をなせり。

同九日 西洋三月十四日 北緯七度十分 東経七十三度二十九分 晴。昨雨ふて。暑氣稍減じ。此日二百六十七里を航し。

同十日 西洋三月十五日 北緯八度四分 東経六十九度十八分 晴。朝五時。海馬の波間ゝ浮ふを看る。海馬ハ魚なり。と正字通ふ見えさり。牙骨。堅強文理。細く糸のごとし。波上を飛跳をる。俗ふ馬の殷な焔火を帯ぶる。画圖とハ大ゝ異なり 此日二百五十五里を航し。

同十一日 西洋三月十六日 北緯九度 東経六十四度四十五分 晴。始て午餐ゝ西瓜を食し。味淡ゝして甘味少し。此日二百七十五里を航し。

同十二日 西洋三月十七日 北緯十度十五分 東経六十度。六分 晴。此日二百

八十四里を航す。

同十三日　西洋三月十八日北緯十一度三分東経五十五度二十七分晴。此日。二百八十二里を航す。

同十四日　西洋三月十九日北緯十一度五十一分東経五十度四十分晴。午前より。亜剌比亜地方の島嶼を過る。夕帆前船を遥より認る。此日二百八十八里を航す。

同十五日　西洋三月二十日北緯十二度二十九分東経四十五度五十二分晴。夕五時紅海に向ふ。時〻島嶼出没す。鯨魚洋中に浮ぶ。此日二百九十里を航す。

同十六日　西洋三月廿一日陰朝六時。亜丁に抵る。此地英領なり。

錫蘭より二千百三十五里通常程十一日亜剌比亜南陬の一埠に入て西紅海の入口なり。北緯十二度四十六分に在て土地赭磧にして山に樹草なく。地に潤澤なし。確瘠薄の地なり。人民は。即亜剌比亜人種にして。印度に比すれば。強壮にして品格又陋し。英の官吏在留して管轄す。港口に二個の砲台あり。欧洲各部の留士も在留せり。此地。開拓の利。産物の益なりといえども。東土。西下。航海の便を開き。万里運輸の自在を得れば。英人の力を尽し。財を費し。不毛懸絶の瘠地なれども。其国旗を掲げ。管領せるなり。

東洋の商業を盛大ふし。支那印度の領地を羈縻する規模を見るに足れり。上陸して海岸に在る客舎に入るは。馬車乗馬とも。店前に来り勧む。即一車を借り市中を看る。海岸の細路屈曲ふして。山の傍に半里余りして。漸く磴道に登る。城門。山腰を截。左右石壁聳へて。要所に大砲を備へ歩卒。守衛せり。切通しの上十丈許ふ。橋梁を架し要害の往来を。道巾僅に両車を容るに足る。稍く下りて。平坦の市街に至る。人家。石室なとまれ陋矮なして。茅茨頽屋半に過き。人烟甚蕭條さり。欧人在

留官員の舎屋い皆海岸の山手に在り。市街を過き。水田場に至る。此地水泉に乏しく。雨澤なき時の為め。闔境の飲料を貯へ。分配を。奇嶂怪巖の間。幽澗深溪を。造築し。周圍塗るに白堊をもてし。舗ふ青石を以て。其傍磴道盤旋し。石梁を架し。石欄を繞らし。上は峯勢聳へ。下は潭心深く。茶亭。花園も。其間に在りて。登臨。勝致の一个の仮山水さり。澗底い。管を通して平地に達せしめ。汲取場あり。豕皮に汲を入れ駝駝又は驢に負しめて。数里外に送り。各所に分つ。人生。瘠土。生活の難き。飲水

も容易ならざるより人力勉強せざるを得ず肥瘠土地の異る民の苦樂の相反せる想ひ見るべし肥沃樂地ふ生まれ遊惰宴安ふ逸し終身人間如斯地あるをおらざる嗚呼幸といふべき歟將不幸といふべん歟知る是所謂瘠土の民ハ勤倹ふし て剛勁事あれハ戎ふ就や軽し即富國強兵の根基なり肥沃の民ハ遊惰ふして柔弱事あれハ戎ふ就くや難し即亡國逃逋の根柢なり豈もつらさらむや土人羊を牧ふるを業とし負載多らハ駱駝を用ゆ○土産駝鳥の羽歐洲婦女子の帽子の飾りふ用ゆ同

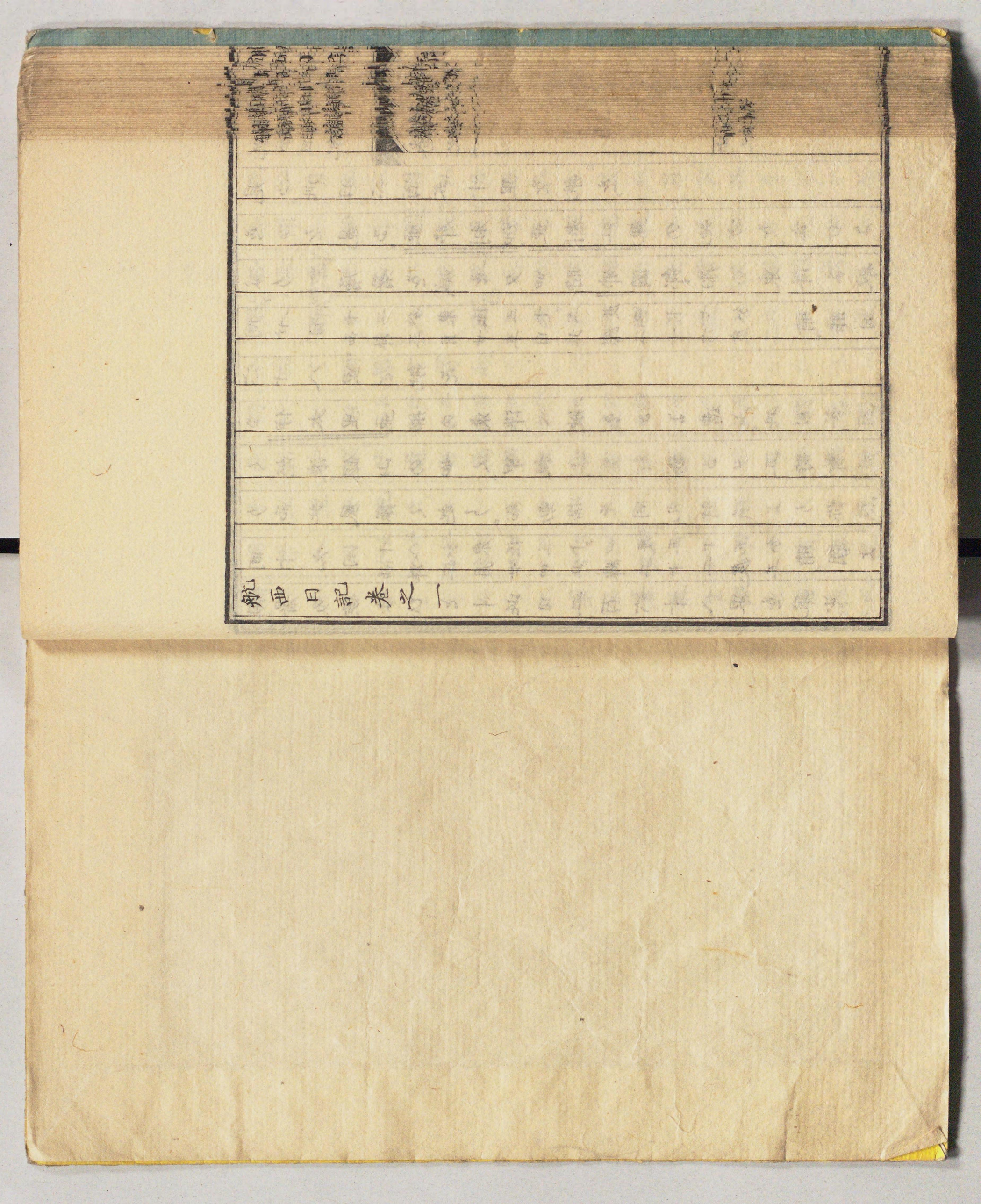
卵豹皮木彫七蒲萄の團扇石鑑等なり旅客あれハ携来りて之を鬻ぐ但錢を乞ひ價ふ貪る甚し上陸の時心を用ゆべし○此地より蘇士ふての海上を紅海と唱へ北ハ亜剌比亜南ハ亜弗利加なり海上ふり皆隱顯出沒せり両地方とも山ハ何ふも樹草なく赭色海面ふ映し航行勞ひあれとも風を生ぜず水ハ油の如く漲りて動かず熱蒸の氣強く自然海面赤光を帶ふ紅海の名空しからず就中五六月頃ハ酷烈を極め病者等其候を犯し航をれハ必損をるといふ我商の航せし

我二月又六月九月ま在り。其六月ま桂りしい。暑熱聞り如し。困耗疲勞。不寐。連夜ま及へり。牛羊も終夜喘をる止を。歐人の此海上を呼て鬼門關と唱へ怖るゝ人を欺りぎ。夕三時ま發を。此日郵便ふ因て郷書を寄を。

同十七日 西洋三月廿二日北緯十五度。五分東経三十九度五十一分 晴。朝。亜弗利加洲。北邊の島嶼を。西方ま見る。此日二百六十六里を航を。

同十八日 西洋三月廿三日北緯十八度五十八分東経三十七度。四分 晴。緯度漸く北ま移ま。より。次第ま暑氣を減を。暑流火

祖暑の候ま。ひとし。此日二百六十八里を航を。

同十九日 西洋三月廿四日北緯二十二度五十八分東経三十四度五十五分 晴。朝ま。より西北風強く起り。船動揺を。同九時頃より弥烈く怒浪。銀山の如く。甲板上ま打揚る。夕五時漸風る伊太里亜船の東洋へ航をるま遭ふ。此日二百六十八里を航を。

同廿日 西洋三月廿五日北緯二十六度三十二分東経三十二度四十七分 晴。昨日より一層暑を減を。夕四時佛國郵船の東洋ま航をるを見る。亜弗利加。亜剌比亜の地方を。左右ま見る。此日二百五十里を航を。